

## <大会開催報告>

# 初年次教育学会 第5回大会 開催報告

海老澤信一  
文京学院大学

東日本大震災(2011年3月11日14時46分18秒)と、それに続く東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故から1年半が経ちました。しかし、まだ仮設住宅に暮らす人々、放射能を避けて避難し続ける人々、そして福島県からの人口流出が続きます。一方、政治は混迷を極め、被災地支援はとても遅れています。NHKの報道でも明らかにされたように、19兆円に上る復興予算も、各省庁において必ずしも迅速で的確な使い方がされているとは言えません。今、私たちは厳しく政治や行政への監視を強めて行くと共に、東日本大震災と原発事故の記憶を決して風化させてはならないと思います。

\*

本学で開催された大会は、同志社大学、玉川大学、高千穂大学、そして昨年度の久留米大学に続く5回目の大会です。東京都文京区にある本学本郷キャンパスに於いて、初年次教育学会主催、文京学院大学共催で開催されました。本郷キャンパスは東京大学に近い歴史のある地域にあります。江戸時代から続く後樂園や六義園に近く、また明治時代の夏目漱石や樋口一葉に縁が深い地域として有名です。秋葉原やお茶の水、上野にも足を延ばせます。旧さと新しさを兼ね備えた地域として、近年外国人観光客にも人気のエリアです。ただ、首都圏で開催された過去の大会が週末開催でしたが、今回の大会は平日開催となりましたので、大会が低調に終わらないかを危惧していました。しかし、今回も例年通り多くの方々のご参加を頂き、成功裏に終了したことを感謝している次第です。

参加者動向を探るべく、昨年度の第4回久留米大学大会と比較してみます。大会参加者数は今年度372名で、昨年度は386名でしたので、若干の減でした。しかし、今回は本学教職員に大会への参加を認めて頂いた結果、本学教職員61名の参加(主に大会企画シンポジウム)があり、総数では433名(賛助ブースの方12名含む)となりました。参加者数の内訳としては、正会員は263名(昨年度246名)で17名増の結果でしたが、非会員は97名(同132名)であり35名減となりました。学生の参加は5名(同8名)でした。正会員263名の内訳を見ますと、個人会員が150名なのに対して、機関会員は77名、賛助会員は31名、学生会員が5名でした。機関会員は大学ですから、多くの大学が初年次教育に関心を抱いているか、関心を持たざるを得ない状況なのかも知れません。また、賛助会員はブースへの出店だけではなく、大会への参加が多かったことも特徴でした。賛助会員は、大会要旨集の巻末に広告を掲載する権利を持つ教育関係の企業ですので、大会に直接参加して初年次教育の問題点やニーズを把握して、学会を支援する意志の表れと受け止めることもできましょう。参加人数の経緯と変化の傾向は、学会理事会の分析が待たれるところです。

一方、大会の内容としては、個人発表44件(昨年度51件)、ラウンドテーブル2件(同4件)、

ワークショップ 10 件(同 8 件), および大会企画シンポジウム 1 件でした。発表件数の減少が目につきました。なお、懇親会の参加者は 120 名(同 154 名)になりました。以上のように大会は例年通りの参加人数となったことで、実行委員会としては胸をなで下ろす思いでした。

本大会の中心テーマは、企画シンポジウムのタイトルに掲げた「初年次からの多様な学生支援と教職協働」でした。初年次教育の分野では、正課教育、正課外教育を通して、多様な学生支援の手法が求められています。また、教員が担当する正課教育に加えて、学生支援を担当し、推進する重要な担い手として、職員や上級生が果たす教育的役割がますます重要なものになっています。しかし、正課外教育の重要性は、必ずしも十分に認識、評価されているわけではなく、加えて、関係する教職員の負担をはじめ、様々な課題、問題点も抱えています。このテーマを念頭に、まず本学で学内の正課外教育の諸活動を洗い出してみました。すると沢山の様々な事例が挙がり、自分達でも驚く程の諸活動を行っていることを改めて認識しました。

また、ご縁があって大会に参加して頂いた安田女子大学の「オリゼミ」は実施時期の工夫や上級生からの伝承が組み込まれており、また入学時より卒業時までを一人のチューターがカバーする「まほろば教養ゼミ」はとてもユニークな試みです。両大学の教育を対比しながら、様々な角度から教職協働の問題点や課題を検証しました。シンポジウムでは、本学の森村幸夫本郷キャンパスディレクターが正課外教育の主な 3 事例を発表し、学生の立場から外国語学部 4 年の清田さんが「てっぺんフォーラム」について発表を行いました。平本先生からは安田女子大学で行っている諸活動について発表して頂きました。いずれも、教職員の負担にも焦点があてられました。また、シンポジウムでは予想を大きく上回る沢山のご質問を頂き、足立 寛先生(立教大学)と沖 清豪先生(早稲田大学)に整理して頂きましたが、参加した皆さまの関心の深さを知ることができました。

次に大会の運営面です。今大会は初年次教育学会の理事がいない大学での初めての開催となりました。本学島田燁子理事長が、初年次教育学会の設立に強い関心を寄せられていた経緯などから、今回の大会開催をお引き受けすることとなりました。私としては学会の経緯や事情も分からないままのお引き受けには非常に戸惑いがありました。しかし、川島啓二先生(国立教育政策研究所)や笹金光徳先生(高千穂大学)を初めとする在京理事 8 名と本学教員 4 名及び職員 2 名による実行委員会を月 1 回のペースで合計 11 回開催し、様々なご指導を頂きました。また、島田理事長のご支援の下、本学職員の全面的な協力を得ることができたことも大会が成功した一因であったことを申し添えます。

一方、本学学生たちの協力には素晴らしいものがありました。日頃、オープンキャンパスなどで活躍している学生が中心になって、大会当日の多くの仕事を引き受けてくれました。夏休み期間中でもあったので打合せが大会直前となってしまう、加えて様々な役割分担があり、教職員指示が簡単であったにも拘わらず、学生の自主的な段取りと気配りには素晴らしいものがありました。殊にお客様を迎える時の笑顔と挨拶は、この大会が好感を持たれた大きな要因でした。本学は、今後とも初年次教育学会のご発展に協力する所存です。皆さまのご協力を心から感謝いたします。ありがとうございました。(初年次教育学会 第 5 回大会 実行委員長)